

## 第9回 看護介護研究発表会

医療法人協愛会 阿知須共立病院

- 日時 平成28年 2月4日(木) 17:45～19:30
- 場所 2Fホール
- 司会 今村 文江 教育委員
- 座長 中村 丹美 主任



### 開会の挨拶

看護部 教育担当師長 井原京子

1年前新病院の移転で勤務環境は安全面においても随分と改善されました。病院内でも他職種連携の強みも見えてきているところです。演題も去年より1題増えて8題です。各部署でアンケート調査を行い、実践しながら看護・介護の魅力を再発見・再確認できる良い機会であり、自部署の分析をすることはとても大切なことで、全員が活躍できる楽しい看護介護ができるようにと願っています。



### 研究発表 1

#### 繰り返されるヒューマンエラーの改善について

～酸素接続・バルン開放忘れに対する意識調査の結果を通して～

3階療養病棟

- 看護師 國田 泉
- 看護師 中津井展子
- 看護師 西村浄美

病棟スタッフ30名に対しアンケート調査を行い、指差し呼称の標語を作成し、ベッドサイドに掲示しました。又職員の意識づけとして、朝礼時、昼休憩後のスタッフ全員で呼称を促した結果、ヒューマンエラーの改善ができました。今後も継続して呼称を行っていきます。また、ヒューマンエラーの低減に向けて継続できるようなルーティン化の取り組みを行います。



## 研究発表 2

### 後期高齢者における体位ドレナージ効果の検討

5階一般病棟

○看護師  
看護師  
看護師

町野俊和子  
三井菜々子  
松下智恵

後期高齢者C-2レベルの肺炎患者3名に対し、リハビリ職員と共にフィジカルアセスメントを用い、半腹臥位での体位ドレナージを適用することで、機能的残気量の改善が図れました。また、体位ドレナージにより効果的に気道分泌物を中枢気道へ移動し排痰を促進させることで効果的な吸引ができ、苦痛の軽減につながりました。他職種の連携や職員のスキルアップも向上しました。



## 研究発表 3

### 皮膚トラブルが生じやすい拘縮部位の保清について

4階療養病棟

○介護福祉士  
介護福祉士

溝岡直幸  
山本幸治

意思疎通困難の自力保清できない2名の両手指、両上肢に拘縮のある患者さんにガーゼでの清拭、保湿剤の塗布を行い、手指ガーゼ、腋窩ガーゼやクッションをあてるなど工夫しました。今回、研究テーマに取り組んだことで拘縮部位の皮膚状態を観察する機会が増えました。また、皮膚の状態を記録することにより、職員間で情報を共有することで統一したケアが継続して行う事ができ、職員の意識も向上しました。今後も継続して行う事で、皮膚トラブルを改善していきたいと思っております。



#### 研究発表 4

### 滅菌器材の保管に対する中央材料部の関与に関する一考察

中央材料室

○介護士  
看護師  
介護士

三好由美子  
西村直弘  
上野憲子

中材職員による勉強会の実施、ポスター掲示、部署ラウンドを行い改善提案後に「滅菌物取り扱いの意識・実態調査」のアンケートを実施しました。教育指導に関与した群が未介入群に対して優位な結果が得られました。すべては、安全な器材が手術や処置の現場で、患者に供給されるために今後の継続的な啓蒙活動の必要性を確認しました。



#### 研究発表 5

### 腰痛に対する病棟職員の意識調査及び腰痛改善のためのストレッチ体操

3階療養病棟

○介護福祉士  
介護福祉士  
介護福祉士

木村元紀  
武波祐香  
武田智絵

病棟職員30名を対象に腰痛体操を行い、3回のアンケートから始業直後の朝に腰痛体操を行うと効果があることがわかりました。その中でも「伸ばす」動きより「ひねる・回す」動きがより効果があると推測できました。「継続は力なり」というように継続して腰痛体操を行う事が、個々の腰痛予防と身体の疲労軽減に繋がっていくと思います。



## 研究発表 6

### 他職種と連携した在宅での看取り ～家族が後悔しない看取り～

#### 訪問看護ステーション

○看護師 武井ふみ  
看護師 広兼浩子

3年にわたり、訪問看護を行った患者さんの最後を長男夫婦、医師、訪問看護、ケアマネ、ヘルパー ショート施設のスタッフに見守られて看取りを行う事ができました。当ステーションはこれからも質の高い緩和ケア、遺族ケアを提供し、「その人らしい」終末を迎えることができるように関わっていきたいと思います。



## 研究発表 7

### 入所さんの元気を取り戻せ！ ～サルコペニアの改善を中心とした 取り組み～

ニューライフ あじす  
○介護福祉士 藤井 彩  
介護福祉士 大塚みどり

サルコペニアを対象に理学療法士と管理栄養士でリハ栄養に取り組み、ADLの向上や在宅復帰支援を行ってきました。生活場面でも機能訓練を行い、看護、介護からもアプローチをしていきたいと考え、他職種で取り組みました。生活場面での機能訓練と併用しBCAAを含む栄養補助食品を摂取した結果サルコペニアや低栄養状態に改善を示し有意差を認めました。この取り組みを生活場面での機能訓練をマニュアル化し、継続的に行えるような体制をつくっていくことを目標としていきます。今後、入所さんの元気を取り戻せるよう多くの関わりを続けていきます。



## 研究発表 8

### 糖尿病患者をめぐる環境についての取り組み

～ミス未然に防ぐためにできる事～

#### 4階療養病棟

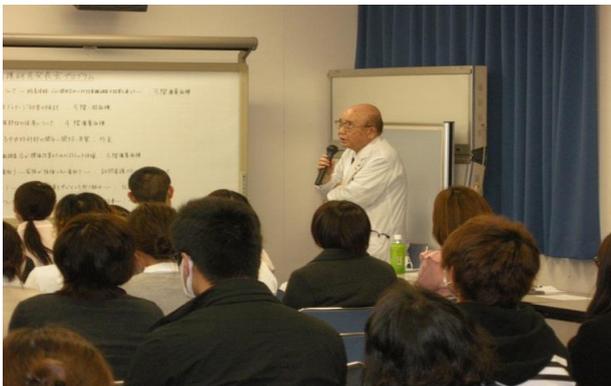
○看護師  
看護師

内海育子  
村田智子

糖尿病の治療の 必要な患者さんの増加と共に血糖測定やインスリン注射の患者さんが増加しました。今回アンケート調査で問題点を明確にし、ミーティングを通してスタッフ間で共有することができました。今後もミスを未然に防ぎ患者さんが安心して治療できる環境を整えるために様々な問題に対し危機意識を持ち、病棟目標である「報・連・相を徹底しチームワークの向上とスキルアップを目指して」取り組んでいきます。



教育委員は、各部署での看護研究チームのアドバイスや看護研究発表会の準備や進行、予行練習などの運営を担当しています。場内からは活発な質疑応答がありました。



#### 院長による総評

効果の出るよい取り組みを全体で行い、現場力をみがいてほしいと思います。

サルコペニアの予防や腰痛体操は大切だと思います。また、大島のおげんきクリニックの岡原先生のようにはいかないけれど、ご家族も後悔しない看取りを継続してください。



#### 大谷看護部長による総評

今回のキーワードは「継続」だと思います。研究期間中は一生懸命取り組みますが、大切なのはその後の継続です。

患者さんが、何を求めているか、常に考え患者さんの笑顔が1つでも増えるような看護・介護を実践していきましょう。